

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎明 報恩感謝



監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0092号
護國青年會議機関紙 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成24年6月20日

民・自・公、3党合意のサル芝居

社会保障と税の一体改革関連法案の修正協議が15日深夜、決着した。消費税増税に向けて民主、自民、公明の3党が「呉越同舟」の合意に至った背景には、先進主要国で最悪の水準にある我が国の財政状況への強い危機感がある。増税賛成派は、増税が暗礁に乗り上げれば、財政運営に対する市場の信認が失われ、債務危機に揺れる欧州の二の舞いになりかねないと主張する。だが、増税は消費を冷え込ませ、景気回復の足を引っ張る。経済成長よりも増税による財政再建を優先すれば、政府が見込むほど増税は増えず、国民の負担ばかりが増大する懸念が拭えない。政府がなすべきことはデフレ対策であって、断じて増税ではない。財政再建と景気回復のためにも、景気悪化↓増税↓増税↓増税という負のスパイラルを断ち切る政策を打ち出すべきである。

編集人・戸出蒼流

国民不在のサル芝居

15日がタイムリミットとされてきたが、14日の協議が終わった時点で、民主党と自民党の間ではすでに大筋合意となっていた。

民主党も妥協したが、自民党もそれなりに妥協している。14日には、あとは文章表現をどうするかという、作文が残っていただけであった。自民党幹事長石原伸晃（左写真）



曰く「我々は民主党にマニフェストを撤回させた」



民主党政調会長前原誠司（左写真）曰く「我々はマニフェストを死守した」と。次期総選挙でお互いが、そう主張できるようないわゆる「永田町表現」というどちらとも読み取れる表現にするための調整が残っていただけであった。また当初は増税に反対であった公明党代

表の山口那津男（左写真）は



15日の協議で急遽妥協に転じた。その理由は、

いろいろ取り沙汰されているが、最大の理由は民主党幹事長の興石東（左写真）が、以前から公明党が主張している小政党に有利な小選挙区比例代表連用制の採用を提案したことによるものだという。



民主も自民も公明も選挙で生き残るためなら、国民が、どんなに困窮した生活を送ろうが、そんなことは意に介さないのだから呆れてものが言えない。そして、15日深夜、国民不在の猿芝居を演じた自公の3党は正式に合意した。実務者が都内のホテルで税制と社会保障の分科会を開き政府提出7法案と、自民党が社会保障制度改革の対案として示した法案の修正で合意文

書を交わし、協議は決着した。これにより、消費税率を2014年4月に8%、15年10月に10%に2段階で引き上げる法案は、成立に向け大きく前進した。

民主党の看板政策である最低保障年金制度の創設と、後期高齢者医療制度の廃止は棚上げとなり、社会保障制度改革は「国民会議」を新設してそこで議論することとなった。まさに談合による玉虫色の決着に他ならない。こういう醜態を見せつけられる度に国民の政治への関心は薄れ、既成政党への不信任は募るばかりとなる。

今回の3党合意は「社会保障と税の一体改革」と銘打つたにも関わらず増税だけが先行する結果となってしまう。本法案提出の最大の目的は社会保障制度を充実させるためだった筈である。それがいつの間にか増税だけが独り歩きを始め、財務省だけが喜ぶ結果となった。

勝の高笑いがこだまする



野田佳彦（左写真）を掌の上で操り、影の総理と言われる財務事務次官



の勝栄二郎（左写真）にとっは民自公のサル芝居は願ってもない幕引き

となった。勝にしてみれば増税法案が成立さえすれば野田政権がどうなるうが、谷垣禎一（左写真）のクビが飛ぼう



が、そんなことは瑣末なこと、野田も谷垣も捨て駒にすぎないのである。増税反対派が歯軋りし、地団太を踏む中、日本列島の津々浦々に勝の高笑いがこだまする。

少しは庶民の生活を考える！
政治家や官僚は、来る日も来る日もスーパーパーのチラシを限なく見て、少しでも安い店に走る主婦の気持ちを考えたことがあるのだろうか。

筆者は、いつかは消費税を上げなければならぬと思うが、このタイミングでの増税には断固反対する。不況とデフレが続く中、増税するという神経が理解できない。増税推進派は「このままでは日本の国際的な評価が落ちる」と

言うが、増税の直撃をもろに受ける中小零細企業経営者や一般庶民のことはどう考えているのだろうか。もちろん与党も野党も低所得者層への対策を考えてくれているとは思う。しかし、民主党が主張している「給付金付き税額控除」は事務処理が煩雑で、不正受給が横行するのではという懸念の声がある。一方、自民党が主張している「食料品など特定品目の軽減税率」も、官僚や族議員や各業界団体の利権の温床になる危険性が指摘されている。結局、弱者対策は今回の協議では決められず先送りされたが、どちらを採用するにしても、新たな問題が発生することは間違いのない。

中間派の反対はアリバイ作り

現時点での増税反対派の筆者としては不本意なことだが、民自公の3党が合意した以上、残るは民主党内の調整を見守るしかない。その調整も可笑しなこととで、本来、党内の意見を集約して、それから野党と協議するというのが筋であり、順番が完全に逆である。しかも幹事長の輿石は、表向きは採決を優先すると言うが、内心は採決の先送りを諦めていないようだ。こういう点ひとつ取っても、民主党に政権担当能力が欠如しているのは明白である。ただ輿石がいくら粘ってみても、野田は会期延長での衆院採決を明言している。三党合意に

こぎつけた以上「やっぱ採決しません」という選択肢は最早あり得ない。それに自民・公明と合意したということは、数の論理で、小沢一派が反対票を投じようが、どう足掻こうが、法案は成立してしまうだろう。そもそも野田にとつて小沢を切ることは、会期を延長して法案の衆院採決を明言した時から織り込み済みな話である。

民主党内で増税に反対しているのは小沢一派だけではない。

前農水相鹿野道彦（左写真）グループと旧民社党の流れを汲む党副代表田中慶秋（左写真）率いる民社協会の面々である。この



中間派も色々騒いでいるようだが、採決では賛成票を投じることとなるだろう。選挙のことを考えれば、このタイミングで離党などする訳ない。恐らく中間派の大部分は、地元有権者に「私も精一杯頑張って増税に反対しました」というアリバイ作りで反対しているだけである。



とる。このタイミングで離党などする訳ない。恐らく中間派の大部分は、地元有権者に「私も精一杯頑張って増税に反対しました」というアリバイ作りで反対しているだけである。

政治家・小沢一郎最後の仕事

今更言っても詮無いことだが民主党が国民との約束事で実現したことは何一つ無い。日本国民が利益となることはやらないで不利益になることはやる。一

方では、支那人や朝鮮人が利益となることは率先してやり、反対に不利益になることはやらない。このように何処の国民ために政治を司っているのか分からないクサレ民主も民主だが、メディアはもつと腐っている。特にテレビは最悪だ。2009年9月の政権交代では、これ以上ないほどの賛辞を与え、民主党を持ち上げていたコメントター、特に大谷昭宏（左写真）の



「最初から無理だったんですよ。あんな詐欺ですよ」などと掌を返してしたり顔で言っているのを見ると、思わずテレビをぶち壊したくなるくらいの怒りを感じる。

怒りを感じるのにはコメントターだけでない。小沢や鳩山の言動にも激しい憤りを覚える。例えば小沢（左写真）は「マニフェスト撤回は我々自身の自殺行為であり、国民に対する冒涇で、



「マニフェスト撤回は我々自身の自殺行為であり、国民に対する冒涇で、

背信行為である」などと尤もらしいことを言っているが己の保身しか考えていないのは明白だ。鳩山（左写真）も「シロアリ退治をまずやらなければならない。増税先行は主客転倒



行は主客転倒

だ」と、これまた尤もらしいことを言ってるが「政治主導」は掛け声だけで、逆に官僚を勢いづかせた張本人が寝言を言うな。だが、小沢や鳩山に苛立ちを感じながらも、民主党解体を願う身としては、ご両人の言動にはある種の期待を寄せている。

民の大多数はルーピー鳩山には何も期待しないが、小沢には「壊し屋」の本領を発揮して、民主党を解体して欲しいと願っている。それが善良なる国民が小沢に望む唯一のことで、小沢はそれが政治家としての最後のご奉公であると捉えるべきである。それが散々悪事を働いてきたお前のせめもの償いである。 編集人

「ヒゲの殿下」 寛仁親王殿下薨去

国民から「ヒゲの殿下」の愛称で親しまれた三笠宮家のご長男であらせられる寛仁親王殿下は、6月6日午後3時35分、多臓器不全のため、東京・千代田区の杏雲堂病院で御年66歳の若さでご薨去あそばされた。

殿下は長い間ガンと闘ってこられ、16回にも及ぶ手術を受けられたが、その都度、奇跡ともいえる回復力を示された。ご自



身が闘病中でありながら、福祉の「現場監督」を自任なされ、障害者福祉、ガン撲滅運動などにご尽力なされた。

小泉政権での皇室典範改悪問題では、女系天皇を容認する有識者会議の方針に反対する立場を貫かれました。皇族ご自身が発言したことに対し、一部のマスコミから批判を受けられても殿下は、皇室とその伝統を護る為不転のご決意を示された。寛仁親王殿下のご薨去を悼み謹んで哀悼の誠を捧げます。